

## I 大学の現況及び特徴

### 1 現況

- (1) 大学名 東北大学  
 (2) 所在地 宮城県仙台市  
 (3) 学部等の構成

**学部**：文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、農学部

**研究科**：文学研究科、教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、理学研究科、医学系研究科、歯学研究科、薬学研究科、工学研究科、農学研究科、国際文化研究科、情報科学研究科、生命科学研究科、環境科学研究科、医工学研究科、教育情報学教育部

**附置研究所**：金属材料研究所、加齢医学研究所、流体科学研究所、電気通信研究所、多元物質科学研究所、災害科学国際研究所

**関連施設**：病院、図書館、東北アジア研究センター、電子光学研究センター、ニュートリノ科学研究センター、高度教養教育・学生支援機構、国際高等研究教育院、学際科学フロンティア研究所、学術資源研究公開センター、教育情報基盤センター、サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター、未来科学技術共同研究センター (NICHe)、研究教育基盤技術センター、サイバーサイエンスセンター、原子分子材料科学高等研究機構 (AIMR)、情報シナジー機構、東北メディカル・メガバンク機構、総合技術部、イノベーション戦略推進本部、マイクロシステム融合研究開発センター、省エネルギー・スピントロニクス集積化システムセンター、電気通信研究機構、材料科学共同研究センター、国際集積エレクトロニクス研究開発センター、リーディングプログラム推進機構、知の創出センター、産学連携先端材料研究開発センター、レアメタル・グリーンイノベーション研究開発センター、災害復興新生研究機構

### (4) 学生数及び教員数 (平成26年5月1日現在)

学生数：学部11,060人、大学院6,757人

専任教員数：3,173人

助手数：69人

### 2 特徴

#### (1) 東北大学の位置づけと歴史的発展

東北大学は、1907年(明治40年)、東京帝国大学、京都帝国大学に続く3番目の帝国大学として創立された。

設立当初から、高等専門学校、高等師範学校の卒業生にも門戸を開き、さらに1913年(大正2年)には日本の国立大学として初めて3名の女子の入学を許可し、「門戸開放」が東北大学の不動の理念であることを示した。

東北帝国大学は、創立に当たって若き俊秀が教授として集まったこともあり、研究者が独創的な研究成果を次々と生み出しながら、それを学生に対する教育にも生かすという「研究第一主義」の精神が確立された。さら

に、戦前からいち早く大学発のベンチャー企業を設立して地域産業の育成を図るなど、世界最先端の研究成果を社会や人々の日常生活に役立てる「実学尊重」の伝統も育んできた。

#### (2) 東北大学の現況と展望

東北大学は、10学部、16大学院研究科等、6附置研究所、3専門職大学院に加え、多数の教育研究に関わるセンター等を擁し、その構成員は、教職員約6,300名、学部・大学院学生等約18,200名(うち留学生約1,450名)である。

平成26年5月には、本学の将来像を提示し、それを目指して本学の全構成員が一体となって歩みを進めるための指針として、全学横断的な取組を示した「里見ビジョン」とこれに連動する「部局ビジョン」から成る「東北大学グローバルビジョン」を策定・公表し、「人が集い、学び、創造する、世界に開かれた知の共同体」である本学が、「ワールドクラスへの飛躍」と「復興・新生の先導」という目標を確実に達成するための重点戦略と工程を示した。

教育面では、学生が国際社会で力強く活躍できる人材へと成長していく場を創出するため、「グローバルリーダーを育成するための教養教育の充実を核とする教育改革」、「グローバルな修学環境の整備」、「学生支援の充実・強化」の3点を重点戦略に位置付け、これらを推進するための中核的な組織として高度教養教育・学生支援機構を設置した(平成26年4月)。また、同機構による教学マネジメントの展開の方針を示すものとして、「東北大学の教学マネジメント・ポリシー」を策定した。

研究面では、世界をリードする研究拠点として優れた研究者が集う開かれた研究環境を創出するため、「多彩な研究力を引き出す環境・支援体制の整備」、「世界を牽引する最高水準の研究への挑戦」、「課題を解決し人類の英知に貢献する研究」の3点を重点戦略に位置付け、訪問滞在型研究センター「知のフォーラム」の設置、COI拠点事業の推進等、基盤研究から応用研究、研究成果の社会実装に至る多様な取組を進めている。

さらに、総合大学としての多様な「知」を終結し、東日本大震災からの復興に寄与する多彩な活動を展開するため、東北大学災害復興新生研究機構を設立し、「機構コミットメント型プロジェクト」(8つのプロジェクト)及び「構成員提案型プロジェクト」(復興アクション100+)を展開している。

今日の社会は、東日本大震災での被災経験をはじめ、産業収益力の低下や少子高齢化、グローバル化に伴う国際競争の激化、地球規模の環境問題など、困難な課題に直面している。このような状況の中、東北大学は社会からの負託に応え、その本来の使命をより高い水準で果たすべく、「ワールドクラスへの飛躍」と「復興・再生の先導」の2つの目標を達成するための努力を重ねている。